

# こんなの 作っちゃった！個人レベル編

手づくり。身近なもので言えば、お料理、裁縫、ガーデニング。私たちは、生きていくうえで何かしら形あるものを作りながら生きています。身近なものから、あっと驚くものまで、人の手が創り出すものは実に様々。今回は、「作る」本をご紹介します。

## 『かんたんすてきな ポンポンづくり』 594.9

丸くて小さなふわふわポンポン。見ているだけでほっこりします。単色になりがちなのポンポンですが、お花や蝶々の絵柄入りのものから、だるまやはりねずみなど、変形ワザを駆使したもので作れてしまうのです。手技ってすばらしい！

欲しいものは中身だけ。むいた後には捨てるだけ。そんなみかんの皮を使って、驚きのアート？を作っちゃいました。おいしく食べながら皮でも遊べる。みかんはすごいやつです。

## 『みかんでつくれるゾウ&仲間たち』 笹川 勇(著) YA 798

## 『手づくりの日傘』 594.9

傘って作れるんですね、自分で。まず、そこにびっくり。なんと世の中には日傘キットなるものが売ってあるそうです。それさえあれば作れてしまうのです。自分好みの日傘が。好きな布地を使うもよし、細部にこだわるもよし。愛着ある一本を作れば、紫外線との戦いも楽しくなるかもしれませんね。

## 『豆本づくりのいろは』 赤井 都(著) 022.8

「豆本」。手のひらにすっぽりおさまる小さな本。小さなページに小さな字。糸で綴じたり、折りたたんだり。くるくる巻いて巻きものにしたり。種類は様々、凝り方は無限。小さな本をこつこつと、手間ひまかけて作成すれば、愛着がわくこと間違いなしです。

## 『宇宙を撮りたい、風船で。』

岩谷 圭介(著) YA 538.9

遥か彼方にある宇宙。ごく一部の人たちが莫大な費用をかけて取り組んでいる夢のような出来事。と思いがちな宇宙開発を、なんと、たった一人で始めた人がいるのです。ホームセンターや100円ショップなど、身近にある材料を集めて作られた道具や風船を使って宇宙を撮影する。「やってみる」って大事だなと思える一冊です。

## 『凄い！ジオラマ』

情景師アラキー（著） 507.9

実物かと思まごうばかりの超リアルなミニチュア立体模型。手の指ですら巨大に見えてしまう程の超細密な2mmの空き缶など、気が遠くなりそうな細かな作業の連続で作られるジオラマの世界。見ているだけで楽しくなります。

## 『図説世界の「最悪」発明大全』

ジャック・ワトキンス（著） 507.1

世の中には、「あって良かった！」と喜ばれる発明と「なぜこんなものを…」とあきれてしまう発明があります。本書で紹介しているのは、まさに後者。口髭ガード、会議用自転車、楽々点眼メガネなどなど。どんなものかは本書を見てのお楽しみ。叶えたいことには賛同できるけれど、実現の方向性については一言物申したい、そんなものにあふれた一冊です。

## 『ダ・ヴィンチが発明したロボット！』

マリオ・タッディ（著） 507.1

「モナリザ」で有名なレオナルド・ダ・ヴィンチ。絵画などの芸術だけでなく、飛行機や自動車の原理を発明した超一流の科学者でもありました。何がすごって、電気やガスもない500年以上も昔の時代に、機械仕掛けのライオンや鎧の騎士のロボットまで発明していたのです！本書では、彼が残した手稿やスケッチからそのロボットを再現。豊富な図版や写真とともに、天才の思考の一部をのぞくことができます。

最近何かと話題の自然エネルギー。知識も技術も何もない一介のサラリーマンが、「空に舞う風車が見たい！」という思いだけで風力発電を作っちゃいました。風車の形だけでも実に様々。試行錯誤しながらも市販品の約10分の1のコストで手づくり発電機が完成！自家発電できれば、いざという時も安心です。

## 『自分で作る風力発電』

中村 昌広（著） 543.6

## 『ゼロからトースターを作ってみた』

トーマス・トウェイツ（著） 545.8

時間にして9ヶ月、移動距離にして3060km、金額にして約15万円かけて作ったもの。それは、トースター。そう、あのパンを焼く家電です。鉱山に赴き、鉄鉱石を集め、鉄を抽出するところから始まり、プラスチック作りのために石油会社と交渉したり（でも失敗！）と、本当にゼロから作ろうとする律儀っぷりに脱帽です。一個人がどれだけ手づくりできるのか、限界に挑戦しています。